

「未来を創造し、社会に貢献する人材の育成」

令和元年度 柳津町立会津柳津学園中学校

学校だより

令和元年12月 6日(金)発行 第 31 号 発行責任者:高橋 弘悦

秦 茂子さん音楽特別授業



5日、フランスを中心に活躍中のオペラ歌手 秦 茂子さんが来校され、音楽の特別講師として授業、及び一流の歌を披露してくださいました。

秦さんは、お隣三島町のご出身。国立音楽大学卒業、昭和音楽大学大学院オペラ科修了後、2001年フランスに留学され、各地の歌曲コンクールにて多くの受賞歴があります。

今回の特別授業は、日本各地で開催されるコンサートの合間を縫って帰郷されるのを機に実現したもので、生徒は、これまで音楽の授業で学んだ「エーデルワイス」や「オー・シャンゼリーゼ」をいろいろな言語で一緒に歌ったり、歌唱の指導を受けることができました。

披露していただいた曲

- I オペラ「私のお父さん」
ジャンニ・スキッキ(Gianni Schicchi)より
プッチーニ作曲
- II シャンソン 愛の賛歌
- III フランス歌曲から セーの橋
- IV 響きの違いを感じ取ろう
ー同じ曲をいろいろな言語でー
エーデルワイス
野ばら(Heidenroslein)
フニクリ・フニクラ
- V 日本歌曲
赤とんぼ 荒城の月
浜辺の歌 小学校 菅家先生とデュエット!
- VI オペラ

伴奏は、今会津各地の演奏会で活躍している新潟市出身の神田 由布子さん。神田さんからは、あのピアノの難曲「子犬のワルツ」を披露していただきました。

演奏会や歌唱披露の後は、特設合唱部がアンサンブルコンテストに向けての指導を受けることができました。数十分の指導で、歌声が大きく変わり、生徒たちも自信をつけていました。



夢を求めて…

秦さんによる特別演奏会のプログラムは「夢を求めて…」

秦さんは、三島町の出身。中学校の同級生は十数名だったといいます。ふとしたきっかけで出かけた演奏会で声楽のおもしろさに触れ、音楽大学に進学。「やりたい」という気持ちがどんどん膨らみ、何も考えずにフランスに渡り、いつの間にか今に至っている、とのこと。

山間部の田舎に育つと、「どうせ」とか「私なんか…」という意識を持ちがちです。テレビで見る華やかな世界や成功体験にあこがれを抱くものの、「そんなのとうていムリ」「私はせいぜい〇〇ぐらいがちょうどよい」と自分で自分の限界を決めてしまいます。

秦さんは「自分の力がどのぐらいなのか、など考えたこともなかった。家の人が強く反対しなかったということもあるけど、『やりたい』と思ったことをし続けていたら、今の自分になっていた。『安定』を幸せと感じるなら、幸せではないのかもしれないけど、自分がやりたいと思っていることを仕事としてしていただける今は幸せ」といいます。

歌も素晴らしかったのですが、その生き方にも大いに共感させられる秦さんの特別授業でした。未来を生きる中学生には、どのような可能性が潜んでいるか分かりません。自分で自分の限界を決めてしまうのではなく、「何をしたいのか」をしっかりと自分に問いかけ、夢を求め続ける姿勢を身につけて欲しいものだと思います。

